

- 一、別紙として配布された古語（用言）の活用表を適切に埋めなさい。
二、次の文章を読んであとの問に答えなさい。

メディア・テクノロジーと文化産業が発達することによって、人々の頭の中には、大量の情報やイメージが送り込まれるようになった。僕たちは今では、どうやって情報を得ようか、ということよりも、どうやってたくさんの情報の中から大事なものを、必要なものを選ぶか、ということに悩まされている。テレビにしろネットにしろ、広告にしろゲームにしろ、僕たちにイメージを送るメディアは、いつも僕たちを取り巻いている。

情報が与えられ、大量のイメージが与えられることによって失われるものの一つは、人間が自分でイメージをつくる力、つまり、「想像力」だ。ある国語辞典には「想像」の定義がこう書かれている。

そうぞう【想像】 ①実際に経験していないことを、こうではないかと推し量ること。②現前の知覚に与えられていない物事の心像（イメージ）を心に浮かべること。

どちらも重要な定義だが、まず②に注目すると、「心像（イメージ）を心に浮かべる」とある。想像力とは、イメージ（像）をつくりあげる力なのだ。

「現前の知覚に与えられていない物事の心像（イメージ）を心に浮かべる」能力は、人間に昔から備わっていたものだ。そして、そのような「心像（イメージ）」を目に見えるものにしよう、五官で感じ取れるようにしようというのは、人類にとって、道具を作るのと同じぐらい古くからある営みだ。約二万年前とされるクロマニヨン人が描いた「ラスコーの壁画」は、その表れの一つだ。

書かれた文字や、人から聞く話でしか物事を伝えられない時代には、見たことがないものの実際の姿については、想像するほかなかった。絵画も、実際の姿を写實的に描いたのではなく、それ自体、想像に基づいて描かれたものも多かっただろうし、人々が多くの絵画を自由に見られるわけでもなかった。ところが、写真や映像がやりとりされるようになると、かえって、想像力には出番がなくなってくる。産業的に大量生産されたイメージをあまりに大量に与えられ過ぎると、人間は自分でイメージをつくり出す力をしだいに使わなくなってしまうのだ。イメージの過剰が、かえってイメージの貧困という事態を生み出しているということなのだ。

問1 本文で論じられていることは何か。その主題（テーマ）について日本語で簡潔に説明せよ。ただし解答は解答用紙の1に書け。

問2 本文での「国語辞典」を利用した「想像」の定義について説明せよ。抜き出しでも適宜まとめても構わない。ただし解答は解答用紙の2に書け。

問3 本文ではある理由で想像力が失われることが心配されている。その理由とはどういうものか。日本語で簡潔に説明せよ。ただし解答は解答用紙の3に書け。

問4 「現前の知覚に与えられていない物事の心像（イメージ）を心に浮かべる」能力は、人間に昔から備わっていたものだと言われているが、そのことがわかる例として本文では何が挙げられているか。日本語で簡潔に説明せよ。ただし解答は解答用紙の4に書け。

問5 産業的に大量生産されたイメージをあまりに大量に与えられ過ぎると、人間は自分でイメージをつくり出す力をしだいに使わなくなってしまうと言われているが、解答者自身の身近で具体的な体験から、それにあたると思われる具体例を挙げよ。ただし解答は解答用紙の5に日本語で簡潔に書け。

三、以下の各古文とそれぞれの現代日本語による解釈を読んで、後の各問に答えよ。

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。6野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。7あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、8いとうつくしうてゐたり。『竹取物語』

9春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく山際、少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。

夏は、夜。10月のころはさらなり、闇もなほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。11雨など降るもをかし。『枕草子』

いづれの12御時にか、女御、更衣あまた候ひ給ひける中に、13いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり。

『源氏物語』

ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。14淀みに浮かぶ15うたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある、人と栖と、また16かくのごとし。

『方丈記』

祇園精舎の鐘の声、17諸行無常の響きあり。娑羅双樹の花の色、18盛者必衰の理をあらはす。おこれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。猛き者もつひには滅びぬ、ひとへに風の前の塵に19同じ。

『平家物語』

つれづれなるままに、日暮らし、硯にむかひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそ20ものぐるほしけれ。

『徒然草』

月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬の口とらへて老いを迎ふる者は、日々旅にして、旅を栖とす。

『奥の細道』

今ではもう昔のことであるが、竹取の翁という者がいたということだ。野山に分け入って竹を取り竹を取りして、(それを)さまざまなこと(Ⅱ細工の材料)に使って(生活して)いた。その名を、さぬきのみやつこといった。(ある日、)その竹の中に、根元が光る竹が一本あった。(翁が)不思議に思つてそばへ近寄つて見ると、(竹の)筒の中が光っている。それを(よく)見ると、(身の丈)三寸ほどである人が、たいそうかわいい様子で座っている。

春は、明け方(がよい)。だんだんと白くなつていく山際(の空)が、少し明るくなり、紫がかつた雲が細くたなびいているの(がすばらしい)。

夏は、夜(がよい)。月の(明るい)頃は言うまでもないし、(月のない)闇の頃もやはり、蛍が数多く飛び交っているの(は風情がある)。また、ほんの一、二匹などが、かすかに光つて飛んでいくのも趣深い。雨などが降るのも趣深い。

どの帝の御代であつたか、女御や更衣が大勢お仕え申し上げなさっていた中に、たいして重んじられる身分の家柄ではない女性で、とりわけ(帝の)ご寵愛を受けていらつしやる方があつた。

流れ行く河の流れは絶えることがなく、それでいて、(流れをなす水は刻々と変わつて)もとの水ではない。(河の)流れが滞る場所に浮かぶ水の泡は、一方では消え一方では生まれて、(一つの泡が)長い間そのままの状態でいる例はない。世の中に存在する、人と住まいも、またこのとおりである。

祇園精舎の鐘の声は、世にある全てのものが移り変わるものだという道理を知らせる響きがある。娑羅双樹の花の色は、盛んな者も必ず衰えるものだという道理をはつきりと示している。おごりたかぶっている人もいつまでも続かない、まるで(はかない)春の夜の夢のようである。勢いの盛んな者も最後には滅んでしまう、全く風の前の塵と同じである。

所在なく持ちぶさたのにまかせて、一日中、硯に向かつて、心に浮かんでは消えていくたわいのないことを、とりとめもなく書きつけていくと、(我ながら)妙に正氣を失つたような気持ちがすることだ。

月日は永遠にとどまることのない旅人であつて、来ては去り去つては来る年もまた同じ旅人である。(船頭として)舟の上で一生を過ごす者や、(馬子として)馬のくつわをとつて老いを迎える者は、(いわば)毎日毎日の生活が旅であつて、旅をすみかとしている。

問1 傍線部6「野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり」とあるが、そういうことをしていたのは誰か。古文から抜き出して答えよ。ただし解答は解答用紙の6に書け。

問2 傍線部7「あやしがりて寄りて見る」とあるが、そういうことをしていたのは誰か。古文から抜き出して答えよ。ただし解答は解答用紙の7に書け。

問3 傍線部8「いとうつくしうてあたり」というのは、誰の様子を言っているのか。古文から抜き出して答えよ。ただし解答は解答用紙の8に書け。

問4 傍線部9「春は、あけぼの」というのは、春において何がどうだと言っているのか。日本語で簡潔に説明せよ。ただし解答は解答用紙の9に書け。

問5 傍線部10「月のころはさらなり」というのは、「月のころ」において何がどうだと言っているのか。日本語で簡潔に説明せよ。ただし解答は解答用紙の10に書け。

問 6 傍線部 1 1 「雨など降るもをかし」というのはどんなときに降る雨がどのようだと言っているのか。本文や解釈で特定できる限り具体的に説明せよ。ただし解答は解答用紙の 1 1 に書け。

問 7 傍線部 1 2 「御時」とは何のことを言っているのか。「御代」という日本語を用いずに日本語で簡潔に説明せよ。ただし解答は解答用紙の 1 2 に書け。

問 8 傍線部 1 3 「いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり。」とは、物語中のどのような人物のことを言っているのか。日本語で簡潔に説明せよ。なお本文以外の『源氏物語』に関する情報は解答するのに要らない。ただし解答は解答用紙の 1 3 に書け。

問 9 傍線部 1 4 「淀み」とは何のことを言っているのか。日本語で簡潔に説明せよ。ただし解答は解答用紙の 1 4 に書け。

問 1 0 傍線部 1 5 「うたかた」とは何のことを言っているのか。日本語で簡潔に説明せよ。ただし解答は解答用紙の 1 5 に書け。

問 1 1 傍線部 1 6 「かくのごとし」とは「このようである」ということだが、どのようであると言うのか。日本語で簡潔に説明せよ。ただし解答は解答用紙の 1 6 に書け。

問 1 2 傍線部 1 7 「諸行無常の響きあり」は何の響きについて言及しているのか。古文から抜き出して答えよ。ただし解答は解答用紙の 1 7 に書け。

問 1 3 傍線部 1 8 「盛者必衰の理をあらはす」とは何がそのような理をあらわしていると言うのか。古文から抜き出して答えよ。ただし解答は解答用紙の 1 8 に書け。

問 1 4 傍線部 1 9 「同じ」というのは、何と何が同じであるというのか。日本語で簡潔に説明せよ。ただし解答は解答用紙の 1 9 に書け。

問 1 5 傍線部 2 0 「ものぐるほしけれ」とはどういうことがものぐるおしいと言うのか。日本語で簡潔に説明せよ。ただし解答は解答用紙の 2 0 に書け。

問 1 6 『奥の細道』の冒頭部が示されているが、昨今、感染症に關係して旅行に行くのものはばかられる気がするかもしれない。さて、感染症に係る問題が全面的に解消されて自由に旅行ができるでしょう。移動に係る時間は抜いて、現地で 2 泊できるとする。また移動に係る費用を抜いて日本円あるいは日本円に換算した現地通貨で 4 万円だけ宿泊費や食費に使えるとして、解答者の年齢上の問題がなく 1 人で自由に旅行・宿泊・飲食ができるとしたら、解答者はどこに行ってどんなことをしたいか。解答用紙の 2 1 に日本語で書け。なおこの問題以外に充分に解答できる解答者には、他の問題の全てに解答してから、この問題の解答に取り組むことを強くすすめる。

(以上)